

# 北海道算数

北海道算数数学教育会  
小学校部会 札幌支部  
平成11年 6月11日発行

No. 94

## 子どもの問題解決力の高まりに向けて

北海道算数数学教育会

札幌支部支部長 小松 侘子

(札幌市立円山小学校長)

多くの会員の皆様を迎え4月22日平成11年度総会を終えました。組織やその活動内容・研究の柱が決まり、札幌支部会員皆様の熱意により組織・学年部会が動き始めました。心から感謝申し上げます。

さて、札幌支部では、昨年度までの4年継続研究で

主題 算数科の問題解決力を高める授業の創造

課題 自力解決を拡大充実させる『良質な問い』

自力解決の質を高める『集団の交流・検討』

そのまとめを受け、本年度からの新たなスタートとしての研究主題・研究内容は次のようになりました。

主題 算数科の問題解決力を高める授業の創造

課題 自力解決の実践のための『問い』の醸成

自力解決の質を高める『集団の交流・検討

活動』

自力解決を支える評価活動

この主題・研究内容は、これからの大きな社会の変化に柔軟に適切に対応できる「生きる力」その資質や能力・態度の育成という教育の目標から考えています。「生きる力」その概念は、主体的に問題を解決する能力（学ぶ力や学び方・学びへの関心）心豊かな人間性、健康や体力などですが、算数科として育む資質や能力を『問題解決力』に焦点化させ主題が設定されています。この算数科で育む『問題解決力』には、教科の枠を越えて横断的総合的学習の基礎となる学力という意味と人間としての心の豊かさの育成という内容も含んで理解する必要があると考えます。

また、研究内容の自力解決～については、＜一人一人の子供の問題解決力＞という意味であり、一人一人の子供の問題解決力が学習を通して本当に培われる授業となっているかという課題意識から設定された研究内容です。

「なるほど。そうなのか」といった実感は、子供の問題や願い・思いが満たされた時に、初めて生まれるものです。算数の学習内容とつながつつ・子供にとっての問題を子供自身がはっきりと認識する。

・解決への見通しも資料の収集も自分がまず考え試行錯誤しつつ自分が決める。

・時には集団へ時には先生へのかわりを自分から求め行動する。

・他の考えや表現から自分がどう判断選択しどう解決したかを自分自身が認識する。

というように問題解決（力）はあくまでも個に成立するものであるという認識を研究のスタートにあたり確認することが大切と考えます。

学年研究が基盤となりますが、実践の具体を通じた交流・主張ある具体化を考えると共に、基礎基本について・領域を見通した中で一つの単元を考えることや、新指導要領の新しい学年の内容その指導は、現行の内容と同じ指導でいいのかといったこれからの算数学習に続く視点も含めた学年研究を期待します。

『算数の学習を通して学ぶ子供を育てる』その誇りをもつ会員の皆様の子供を見つめ向き合い寄り添っての実践により、札幌支部の活動が一層充実発展することを確信しご挨拶と致します。